

# 教育および施設に関すること

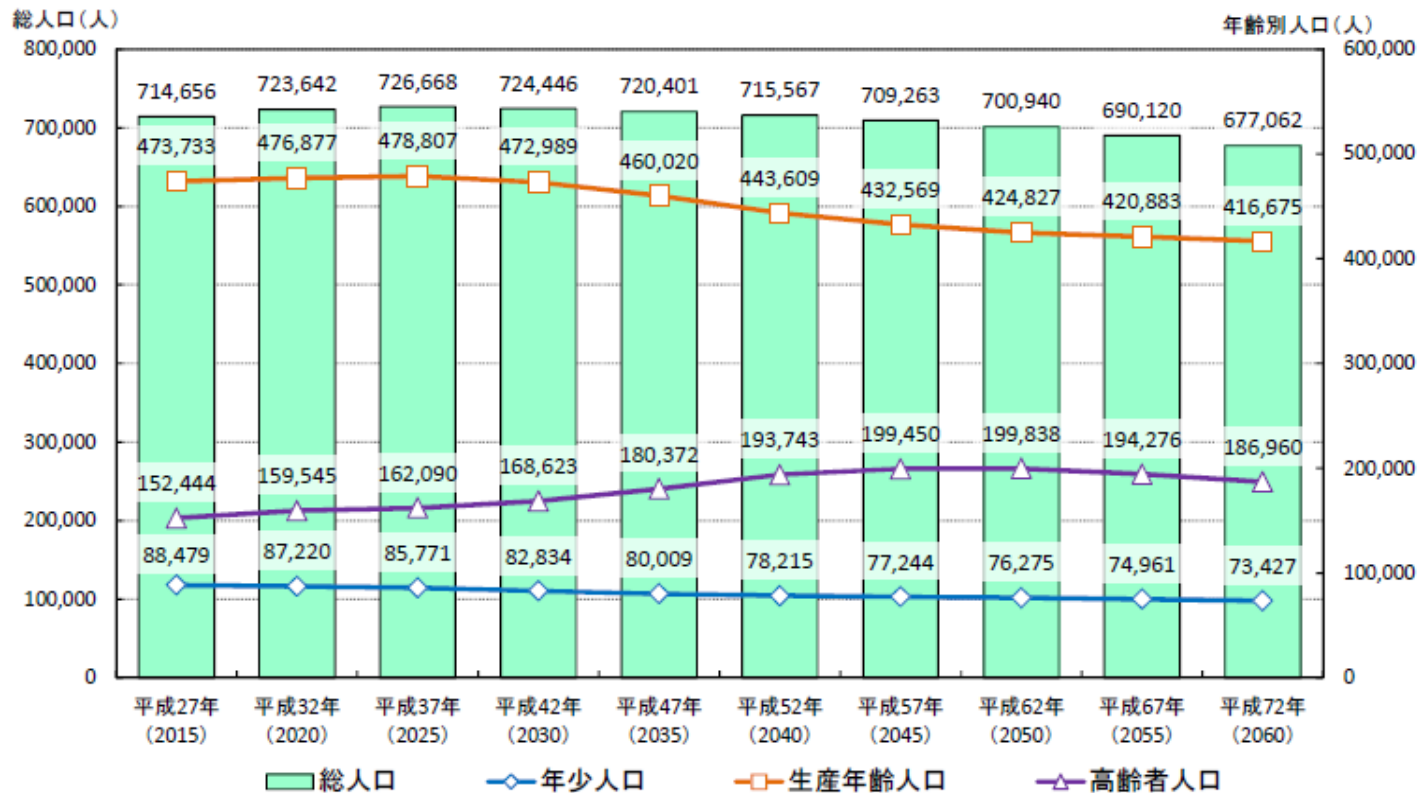
**第3回 練馬区立大泉第二中学校の教育環境保全および  
都市計画道路の整備に関する有識者委員会**

# 1 人口推移について(区全体の人口推移)

## 総人口・年齢区分人口の推移

全国的には人口減少局面に入っています。

練馬区では平成30年代までは増加し、それ以降減少するものの、減少率は全国に比べて緩やかと推測されます。



■出典：練馬区人口ビジョン他

# 1 人口推移について(地域の人口推移①)

## 地域別人口の分析

練馬区を4つの地域に分けて、それぞれの地域の人口について分析します。

大泉学園町、大泉町、東大泉、南大泉、西大泉、西大泉町

旭町、光が丘、田柄、春日町、高松、土支田、北町、錦、平和台、氷川台、早宮



三原台、谷原、高野台、富士見台、南田中、石神井町、下石神井、上石神井南町、上石神井、石神井台、関町北、関町東、関町南、立野町

練馬、桜台、羽沢、小竹町、旭丘、栄町、豊玉上、豊玉北、豊玉中、豊玉南、貫井、向山、中村北、中村、中村南

■出典：練馬区人口ビジョン

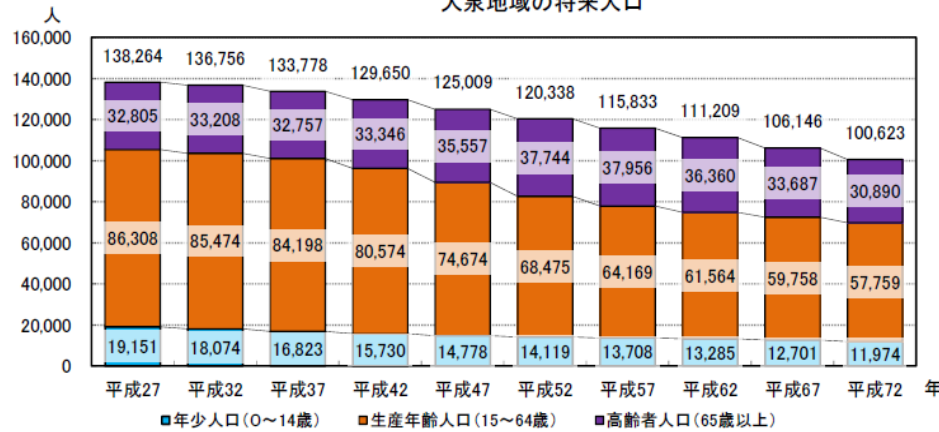
# 1 人口推移について(地域の人口推移②)

## 地域別人口の推計

■出典：練馬区人口ビジョン

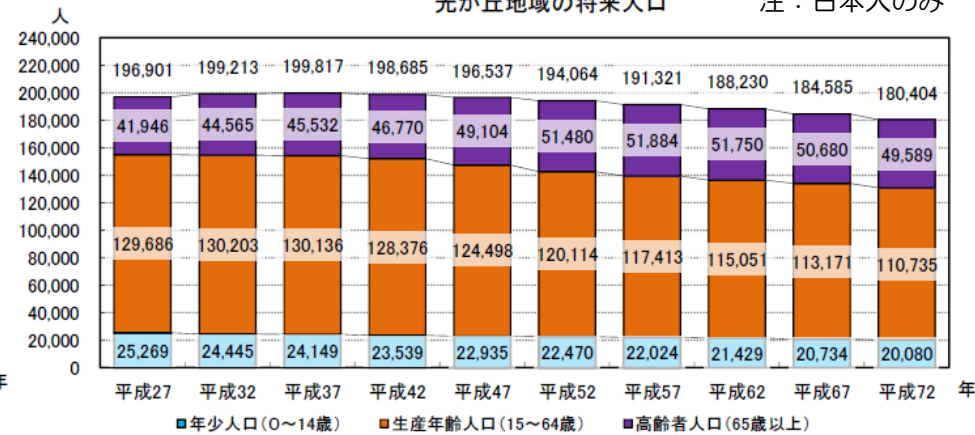
練馬地域では年少人口と生産年齢人口が今後も増加する可能性がある一方、大泉地域では3つの年齢区分で人口が減少する可能性があります。石神井地域と光が丘地域については、平成37年にピークを迎え、以降減少傾向にあります。

大泉地域の将来人口

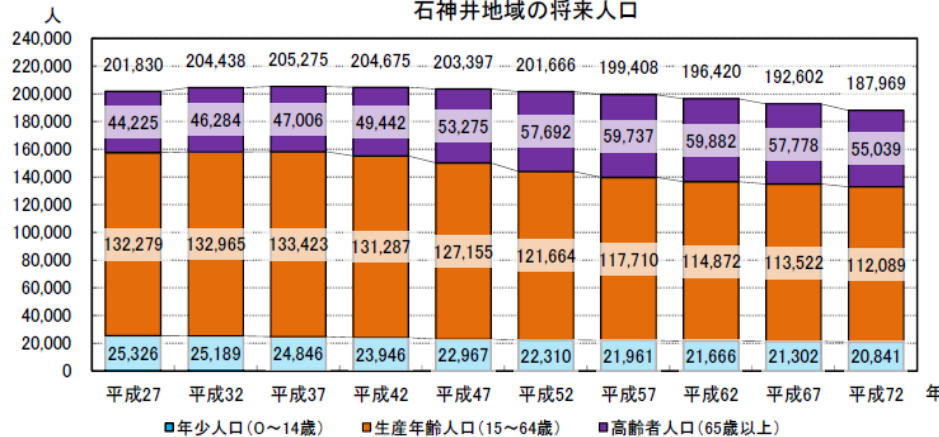


光が丘地域の将来人口

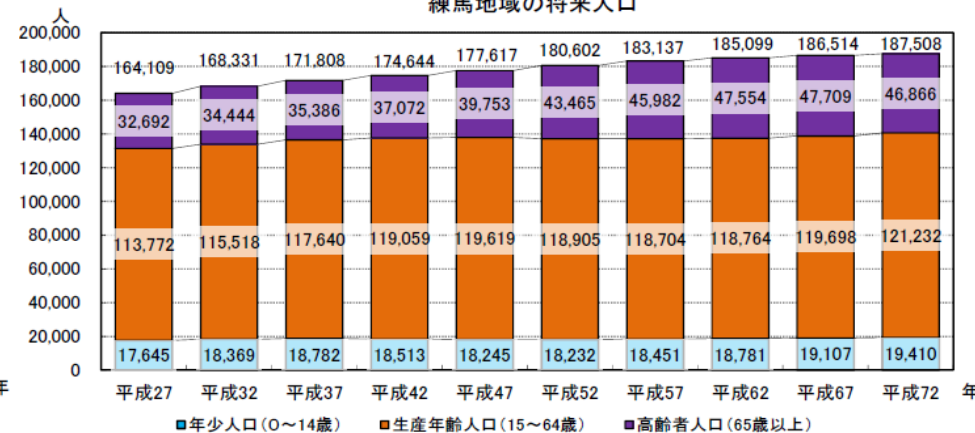
注：日本人のみ



石神井地域の将来人口



練馬地域の将来人口



# 1 人口推移について(地域の人口推移③)

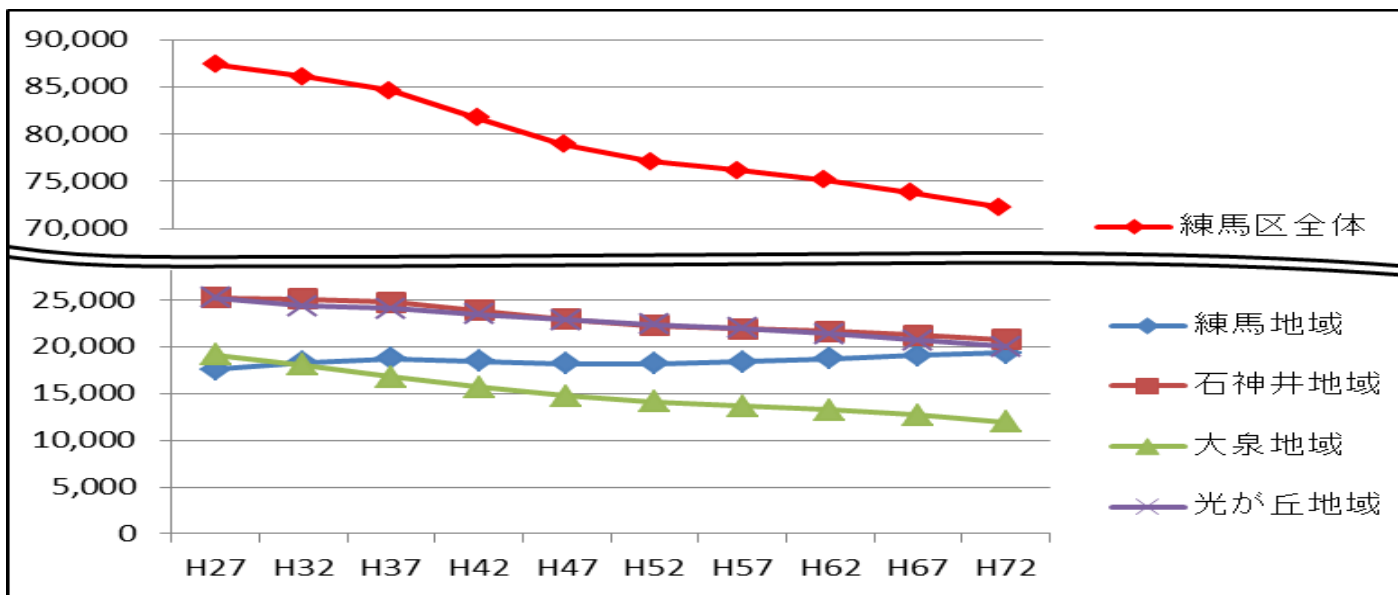
## 地域別年少人口（0歳～14歳）の推移

平成72年（2060年）における年少人口（0～14歳）の推計は72,305人（日本人のみ）となり、平成27年の年少人口と比較すると、約15,000人減少すると予測されます。

また、練馬区全体では約17%減に対し、大泉地区では約37%減と少子化が顕著になると推測されます。

					単位:人
地域 年	練馬区全体	練馬地域	石神井地域	大泉地域	光が丘地域
H27	87,391	17,645	25,326	19,151	25,269
H32	86,077	18,369	25,189	18,074	24,445
H37	84,600	18,782	24,846	16,823	24,149
H42	81,728	18,513	23,946	15,730	23,539
H47	78,925	18,245	22,967	14,778	22,935
H52	77,131	18,232	22,310	14,119	22,470
H57	76,144	18,451	21,961	13,708	22,024
H62	75,161	18,781	21,666	13,285	21,429
H67	73,844	19,107	21,302	12,701	20,734
H72	72,305	19,410	20,841	11,974	20,080

注：日本人のみ



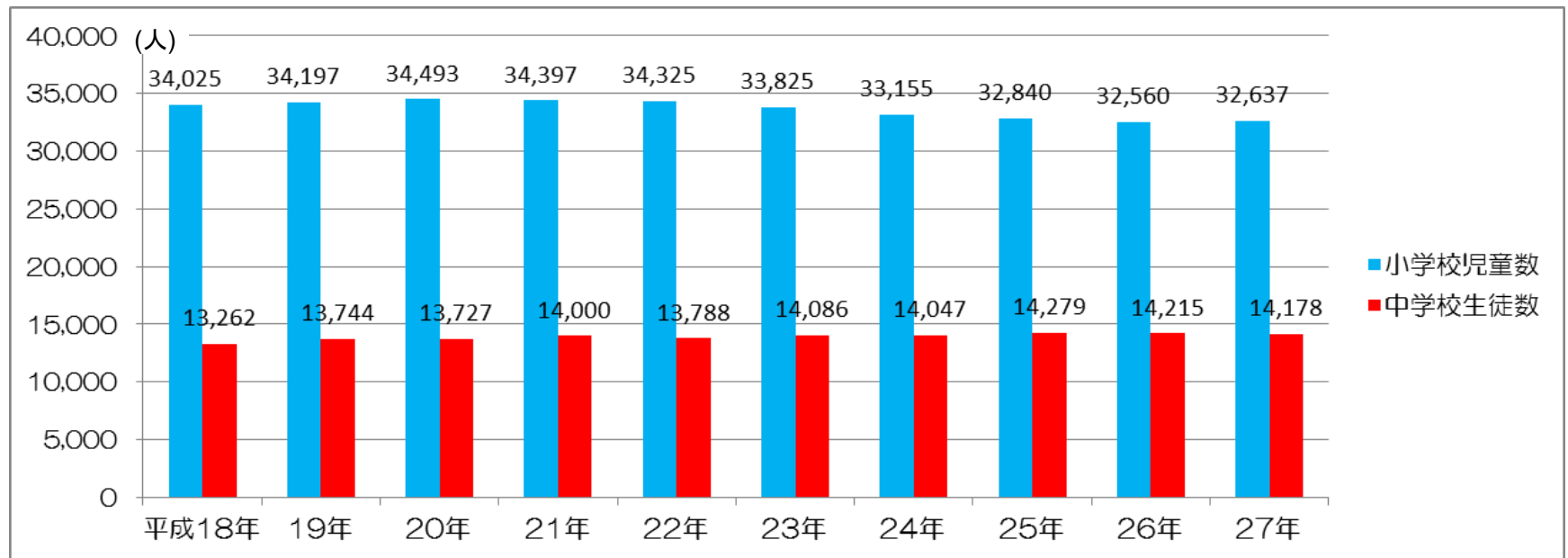
■出典：練馬区人口ビジョンを編集

## 2 区立小学校児童数、中学校生徒数の推移

平成18年～27年においては

区立小学校児童数は32,000人台から34,000人台で推移しています。

区立中学校生徒数は13,000人台から14,000人台で推移しています。



■出典：練馬区統計書

# 3 大泉第二中学校の状況①〔第1回資料時点修正〕

## ■所在地

練馬区東大泉六丁目21番1号

(西武池袋線大泉学園駅南口下車 徒歩7分)

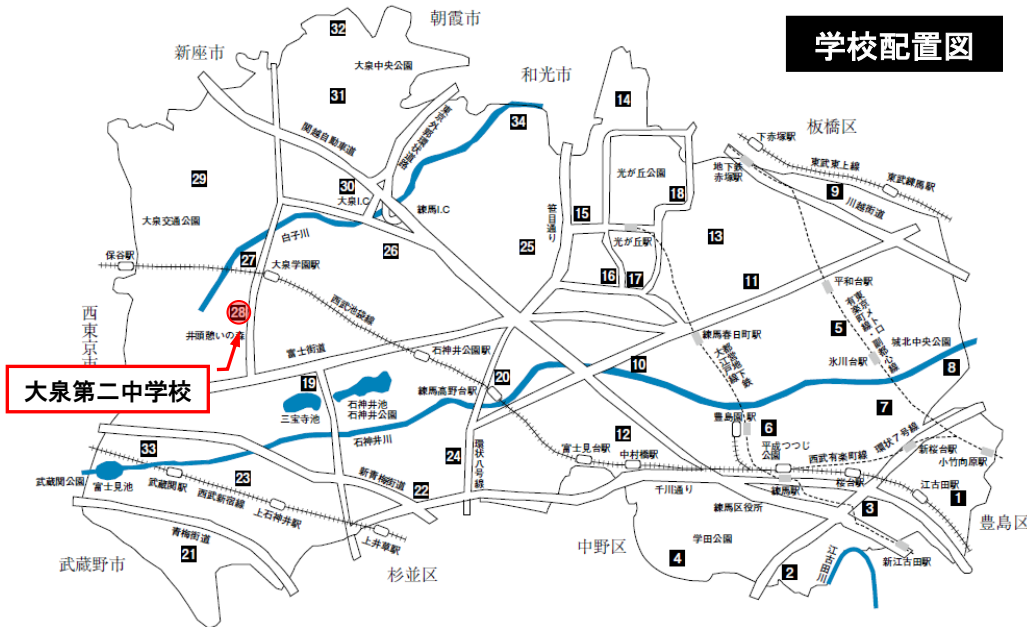
## ■開校年月日

昭和32年4月1日 (創立59周年)

(現在の校舎は昭和50年3月竣工 (築42年))



学校配置図



■出典：練馬区立中学校HP



# 3 大泉第二中学校の状況②〔第1回資料時点修正〕

## ■校地面積

校地面積は18,919㎡（建物敷地：8,280㎡、運動場：10,639㎡）と区内34校中で5番目に広い敷地を擁しています。

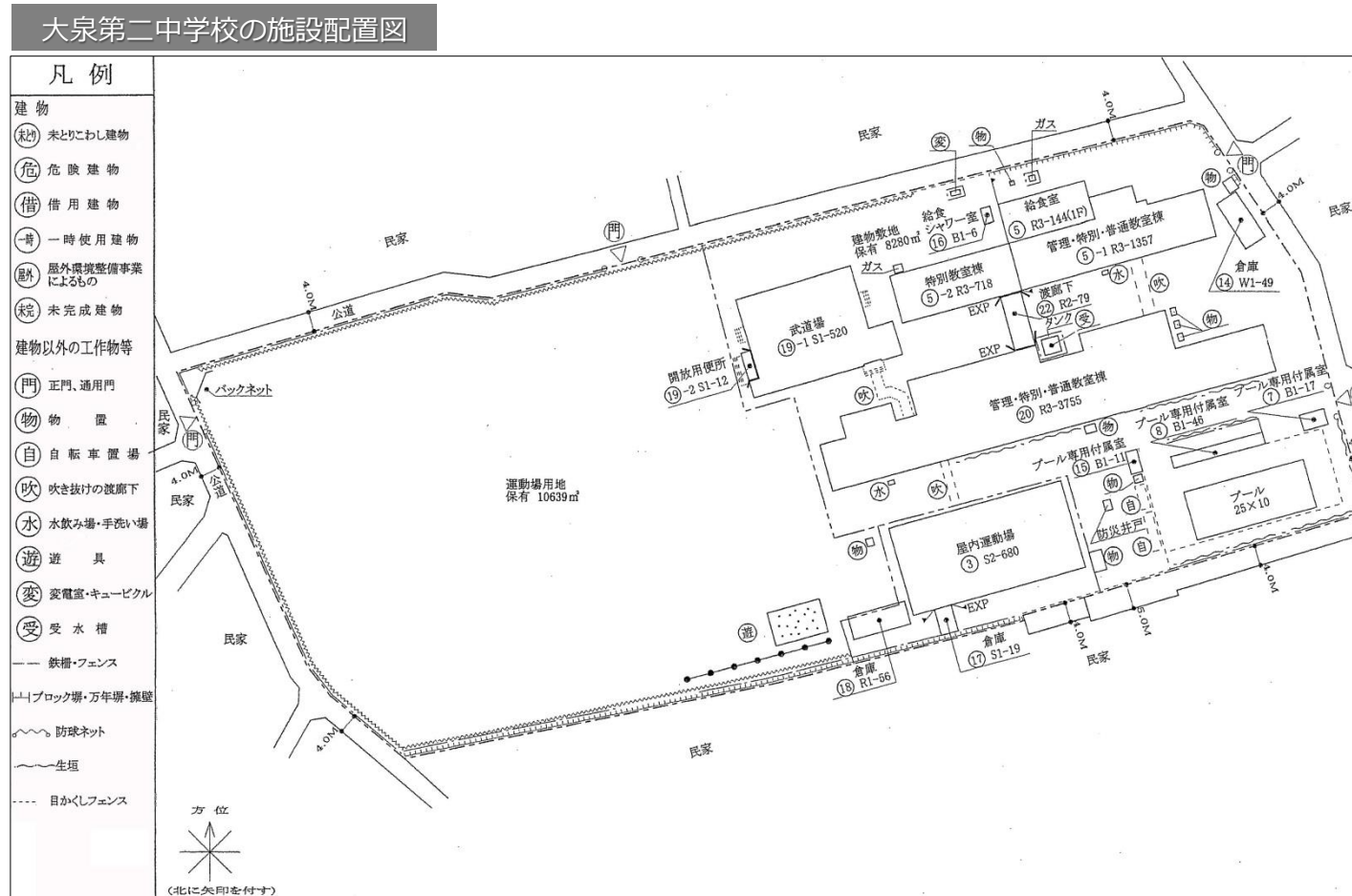
## ■施設規模

普通教室：16室  
特別教室：17室

## ■生徒数・学級数

生徒数：575名  
学級数：16学級

生徒数・学級数 (平成28年5月1日現在)				
	1年	2年	3年	合計
学級数	5	5	6	16
生徒数	187	182	206	575



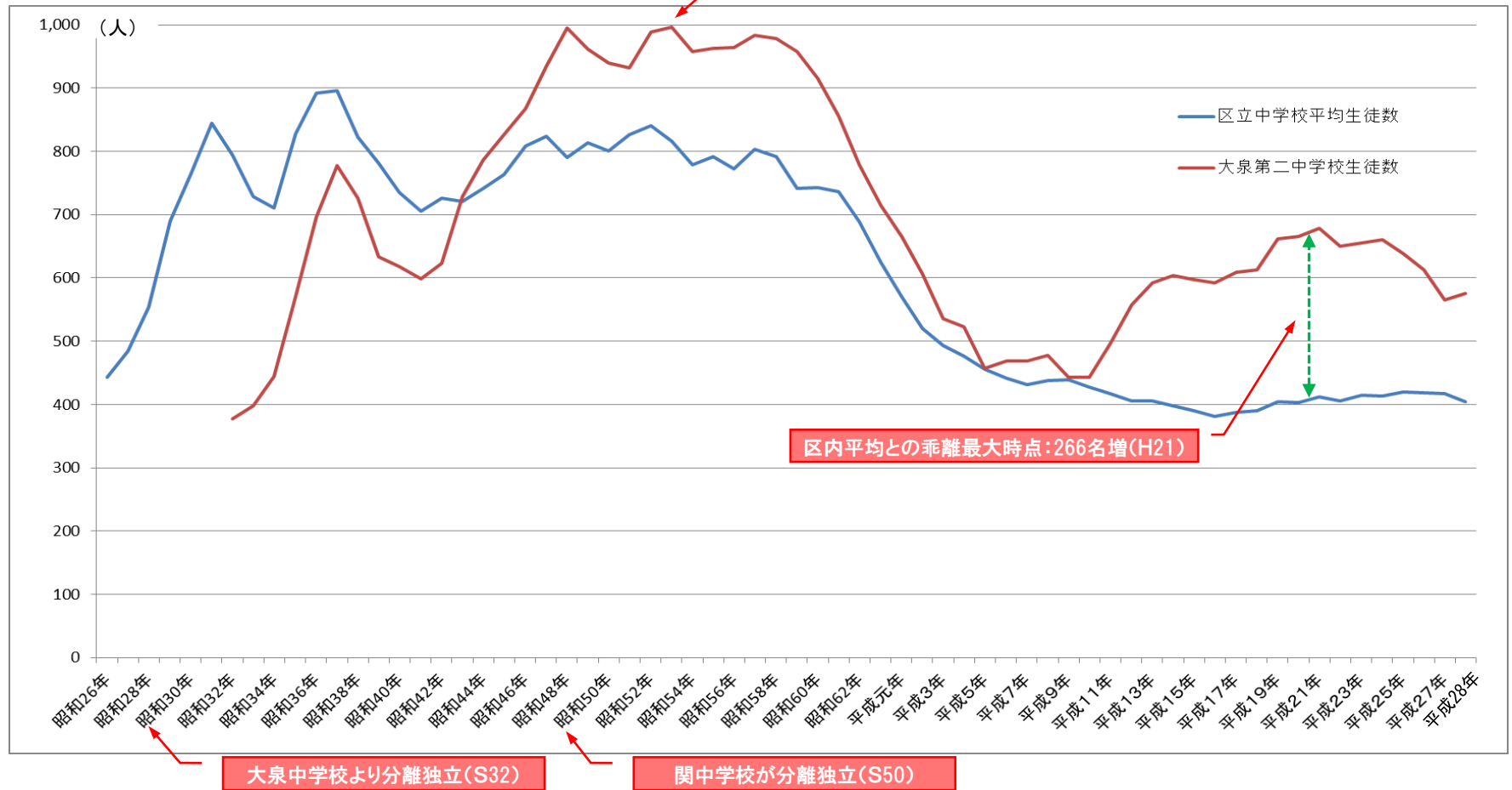
■出典：平成28年度 公立学校施設等の総括表（中学校）



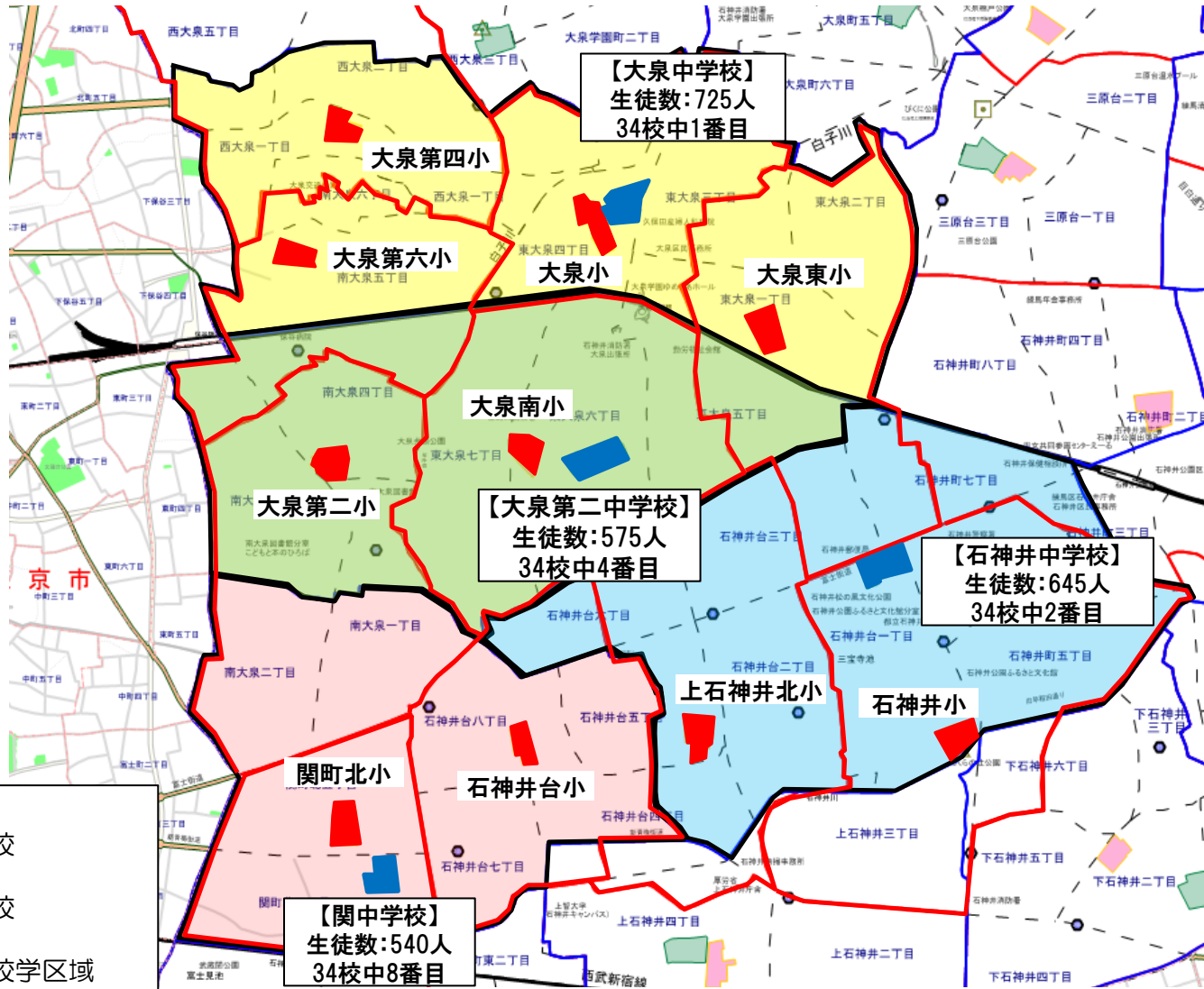
# 4 大泉第二中学校生徒数の変遷〔第1回資料時点修正〕

大泉第二中学校の生徒数は、区立中学校の平均生徒数に比べ多く、区内34校中4番目の生徒数を誇っています。（平成28年5月1日現在 575名）

区内中学校平均生徒数との比較



# 5 大泉第二中学校および周辺中学校通学区域



■ 出典：平成28年度 練馬区立小中学校在籍者数・学級数一覧

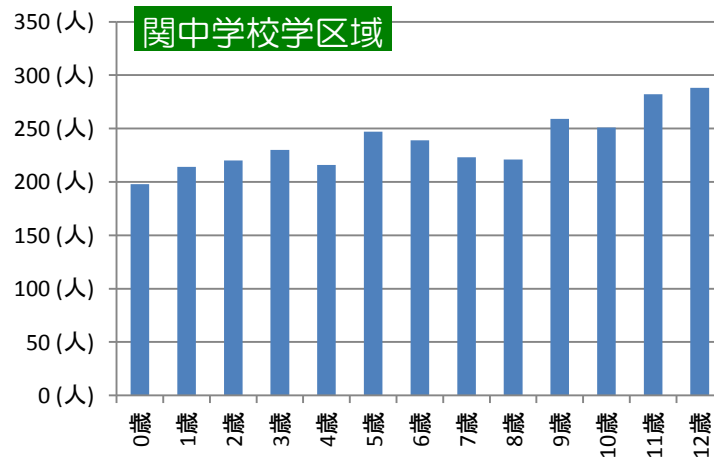
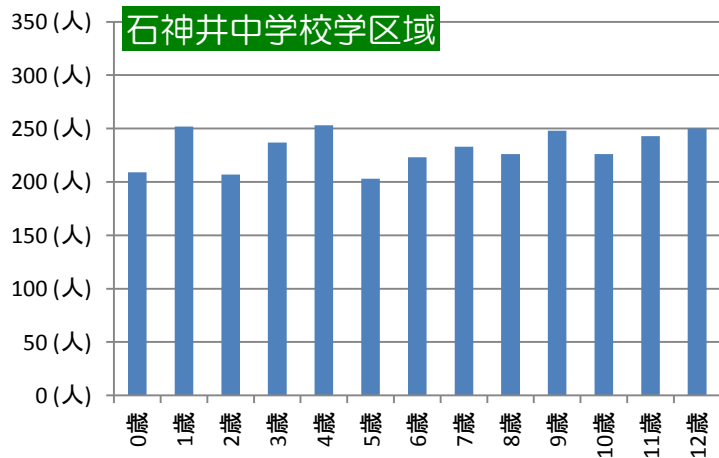
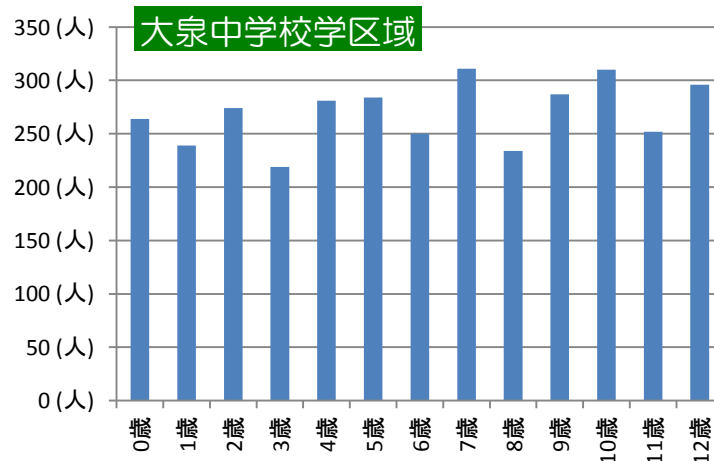
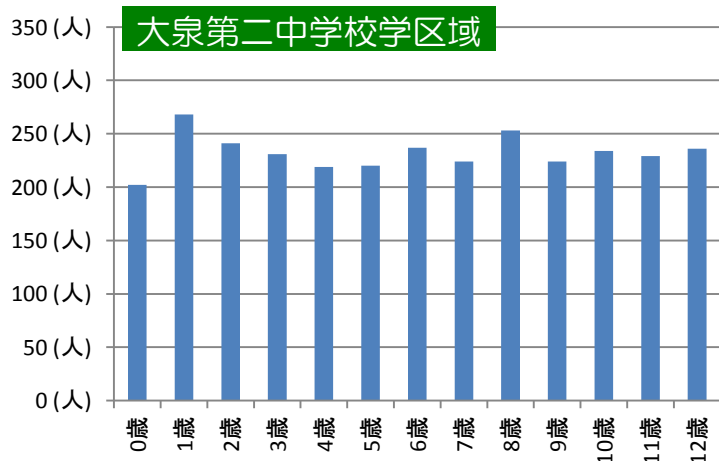
## 6 大泉第二中学校および周辺中学校通学区域内における年少人口分布

### 学齢児童数の推計

■ 出典：平成28年4月1日現在の住民基本台帳を基に集計

大泉第二中学校および周辺中学校の年少人口は以下のとおりです。

各年代で多少のばらつきはありますが、大泉中学校以外の中学校は、概ね200人から250人の間で推移しています。



## 7 大泉第二中学校および周辺中学校の施設保有状況

### 施設保有状況

大泉第二中学校と周辺中学校の施設保有状況は以下のとおりです。  
校地面積、校舎面積、運動場面積は、区立中学校平均を上回っています。

校名	区分	生徒数	校地面積 ①(m <sup>2</sup> )	①の1人当 り面積(m <sup>2</sup> )	校舎面積 (m <sup>2</sup> )	運動場面積 ②(m <sup>2</sup> )	②の1人当 たり面積 (m <sup>2</sup> )	体育館 面積(m <sup>2</sup> )	教室数		階数
									普通	特別	
区立中学校平均		417	15,935	43.8	5,653	8,948	24.5	1,009	13	18	—
大泉第二中学校		565	18,919	33.5	6,015	10,639	18.8	699	16	17	3階
大泉中学校		759	16,732	22.0	7,853	11,368	15.0	1,587	23	19	4階
石神井中学校		683	16,874	24.7	6,420	9,569	14.0	1,332	22	18	4階
関中学校		523	12,686	24.3	5,921	7,395	14.1	882	15	17	4階

■出典：練馬区教育要覧（H27年度版）

## 8 区立中学校学校選択制度 ①

### 概要

■練馬区では魅力ある学校づくりと、保護者・生徒の意思を可能な限り尊重する、公平で透明性のある制度の実現をめざし、平成17年度から区立中学校の選択制度を実施しています。

学校選択制度では、保護者・生徒自身が、各学校の通学区域外からの受け入れ人数枠の範囲内で、通学区域外の中学校を選ぶことができます。

### 選択できる学校

■区立中学校全34校から1校のみ選択できます。第2希望の制度はありません。

■学校を選択できるのは新入学時の一度だけです。

### 受け入れ人数枠と当選者数

■各学校の受け入れ人数枠は原則として40人（1学級）です。ただし、通学区域内学齢者数等を考慮し、通学区域外からの受け入れが難しい場合は、必要に応じて受け入れ人数枠を制限します。

■新中学1年生のうち、約20%が国立・都立・私立中学校に進学することから、各学校の受け入れ人数枠に対し、あらかじめ当選者数を設定し、この数より希望があった場合に抽選を行います。なお、平成28年度入学の受け入れ人数を制限している学校と、受け入れ人数枠・当選者数は下表のとおりです。

受け入れ人数枠	当選者数	該当校
40人	50人	下記以外の中学校
30人	40人	石神井東中学校・関中学校
20人	25人	三原台中学校
10人	15人	大泉中学校

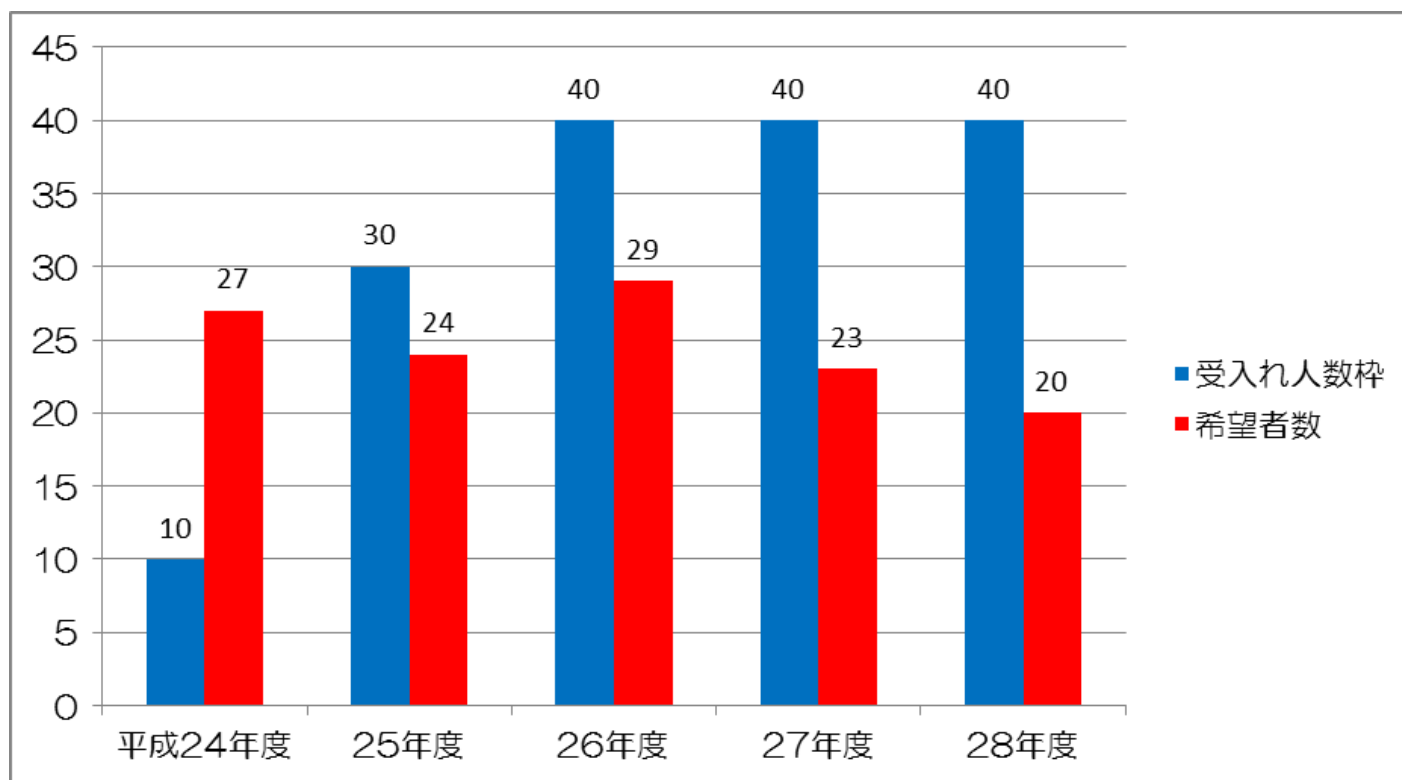
■出典：練馬区HP  
学校選択制度の流れ

## 8 区立中学校学校選択制度 ②

### 大泉第二中学校における学校選択制の傾向

大泉第二中学校の学校選択制の傾向は以下のとおりです。

大泉第二中学校では平成25年度以降受け入れ人数枠に対して希望者数が下回っています。



## 9 小中一貫教育 ①

### 練馬区における小中一貫教育推進の経緯

- 平成15年 3月：「21世紀の練馬の教育を考える懇談会」答申を契機に、小中一貫教育校の設置に向けた検討開始。
- 平成20年11月：「練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針」（以下、「基本方針」とする。）を策定。これに基づき、大泉学園桜小学校と大泉学園桜中学校を小中一貫教育校として選定し、平成23年4月に大泉桜学園を開校。
- 平成23年 4月：区内10組の小中学校を小中一貫教育の研究グループに指定し、施設が離れた小中学校における小中一貫教育の研究を開始。
- 平成24年 2月：施設が離れた小中学校における小中一貫教育の進め方について「練馬区小中一貫教育推進方策」（以下、「推進方策」とする。）を策定。
- 平成28年 6月：「基本方針」と「推進方策」を一つにまとめ、今後の練馬区における小中一貫教育の方向性を示すものとして、「練馬区小中一貫教育推進方針」（以下、「推進方針」とする。）を策定。

### 練馬区における小中一貫教育の定義

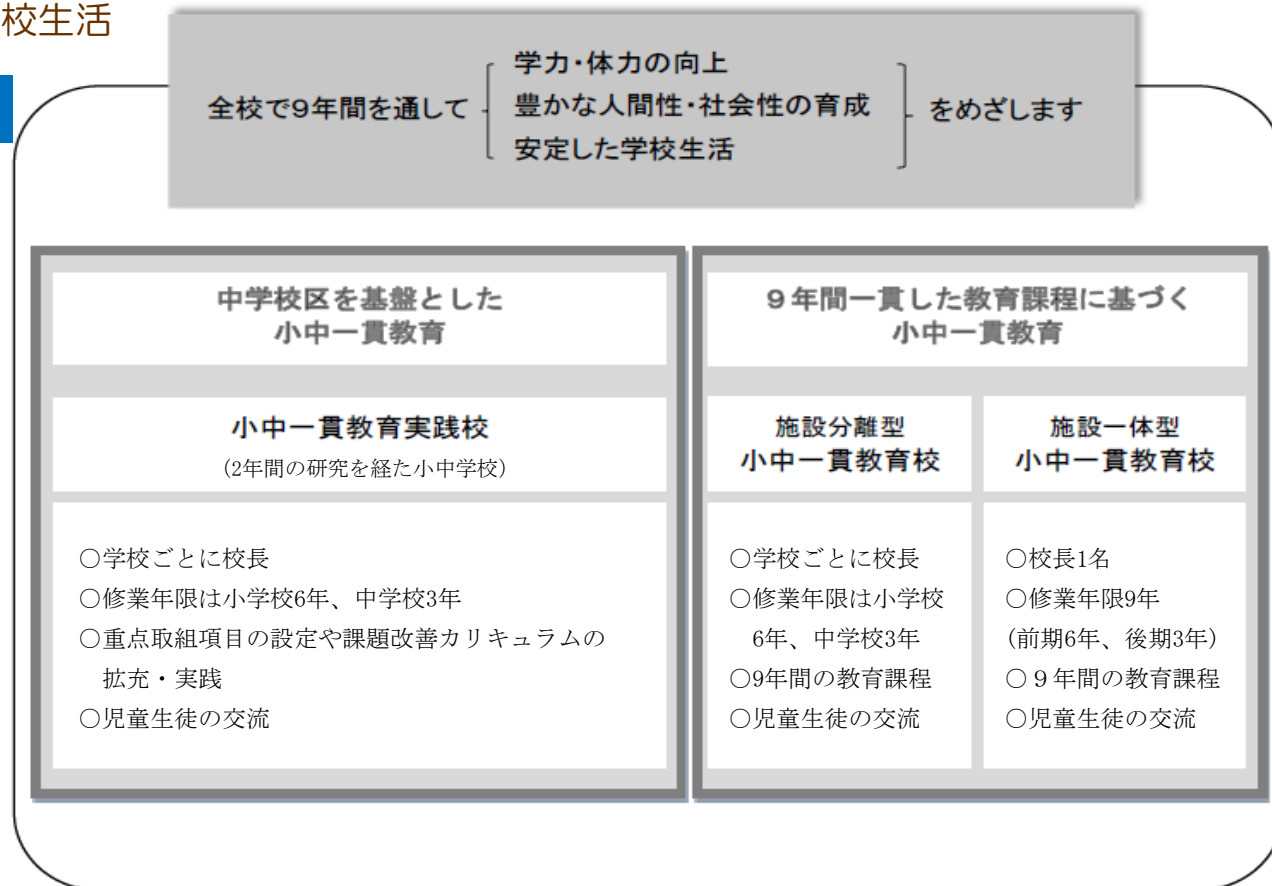
施設一体型小中一貫教育校における教育活動だけでなく、施設が離れている小中学校が連携・協力して「義務教育9年間を見通した教育課程のもとで実施する教育活動」についても「小中一貫教育」と呼ぶこととしています。

## 9 小中一貫教育 ②

### 練馬区における小中一貫教育のめざすもの

- ①授業改善による学力・体力の向上
- ②連携指導による豊かな人間性・社会性の育成
- ③滑らかな接続による安定した学校生活

### 練馬区における小中一貫教育の形



■出典：練馬区小中一貫教育推進方針



## 9 小中一貫教育 ③

### 練馬区における今後の小中一貫教育について

#### ■練馬区全体の取組について

- 区内を4つのエリア（練馬・光が丘・大泉・石神井）に分け、各エリアに拠点校となる小中一貫教育校を1校は設置します。
- 拠点校となる小中一貫教育校については、施設一体型、施設分離型を問わないものとします。

#### ■大泉第二中学校の取組みについて

##### 【大泉エリアの取組につい】

- 大泉第二中学校は大泉南小、大泉第二小と小中一貫教育研究グループとして、小・中学校の先生が協力して、教科における子供たちの課題を改善するためのカリキュラム（指導計画）を作成したり、教え方の工夫を研究したりしています。

#### 4エリア イメージ図



■出典：練馬区小中一貫教育推進方針ほか

# 10 区立施設のあり方について((仮称)区政改革計画【素案】)

現在ある区立施設をそのまま改修・改築すると、今後30年間に約6,450億円の経費が必要となります。現状のまま区立施設を維持することは極めて困難です。

社会状況が大きく変化するなか、必要な区民サービスを提供しつつ施設数・施設面積を可能な限り縮減するために、区民全体の視点で区立施設のあり方を見直していく必要があります。

## <統合・再編>

- 学校の統合・再編と跡施設の活用に取り組みます。

子どもたちの良好な教育環境を確保するため、過小規模校を中心に区立学校の統合・再編に取り組みます。跡施設は、周辺施設の複合化なども含め、将来を見据えて区民ニーズに応える活用を進めます。

## <複合化>

- 学校の改築にあわせて周辺施設を複合化します。

今後、多くの小中学校が改築の時期を迎えます。改築にあわせて周辺の区立施設などの複合化を進めます。